

### 人来田小



これがイチオシ

#### 感謝の心 先輩から学ぶ

人来田小のイチオシは、「あいさつ」です。「あいさつマスター上級者」になれるよう、すれ違った人に、自分から進んであいさつをすることを心掛けています。

学区内には、信号機が一つもありません。多くの児童は、横断歩道を渡るとき、止まってくれた車におじぎをしています。誰かに教えてもらったわけではなく、先輩たちの姿を見て引き継いできた習慣です。防犯ボランティアや地域の方にも感謝の気持ちを持ち、進んであいさつをしたいです。

学校名 仙台市立人来田小学校  
住所 仙台市太白区人来田1の1の1  
創立 1982年  
電話 022(243)2185  
校長 小島 拓也  
児童数 282人

## 協力し仲間とチャレンジ

人来田小学校では、本年度、より良い学校にするために、児童会スローガンをつくりました。そのスローガンは、「仲間とチャレンジ 広がる笑顔」です。このスローガンを基に、いろいろな学校行事を進めています。学校行事の中から「わかさフェスティバル」という児童会祭りを紹介します。みんなが楽しめるように、4年生から6年生がさまざまなお店を開き、そのお店をみんなが回ります。毎年、わかさフェスティバルのときは、校舎内がと

### スローガンを基に行事



編集委員 阿部柊香、岩瀬瑛太、大宮風希、小室心音、佐藤璃皇、柴田未来、鈴木陽依梨、高山元輝、成澤永華、森山映希(6年)  
指導教員 後藤彩夏

## わが校わがまち スクール通信



今回は 開北小(石巻市) 鶴巻小(仙台市)

## すてきなあいさつ広がる

合言葉を意識して行動 鳴瀬桜華小学校では、すてきなあいさつが飛び交う学校を目指しています。一人一人が気持ちのよいあいさつをするために児童会で「I love you」の合言葉を決めました。「I」は「相手の目(eye)」を見て、「love」は「心を込めて」、「you」は「大きな声で」、「う」は「相手がうれしくなるように」、「か」は「かがやいて笑顔で」あいさつするという意味です。先日の代表委員会で、合言葉をどうすればみんなが意識できるかを話し

### 合言葉を意識して行動



編集委員 右垣歩乃実、佐々木琴音、内海美由希、渋谷遼汰、佐藤結彩、千葉琉桜(6年) 後藤結菜、土井瑛斗、宇佐美結月、小野謙太郎、佐々木杏、和田柚香(5年) 指導教員 井上いつみ 坂本葵

### 鳴瀬桜華小



これがイチオシ

#### 校名や校歌、校庭に「桜」

鳴瀬桜華小学校の校名には「桜」の文字が入っています。俳優の中村雅俊さんが作曲してくださった校歌「花になろう」には、「誰かのためにいられるような桜の華になろう」という歌詞があります。

校名や校歌にもある桜は、校庭のさまざまなところ植えられています。ソメイヨシノ、滝桜の他、御室桜や江戸彼岸桜など、あまり耳にすることがない桜もあります。春になると、たくさんのきれいな桜の花を見ることができます。桜は私たちの自慢の花です。

学校名 東松島市立鳴瀬桜華小学校  
住所 東松島市小野宮前31  
創立 2013年  
電話 0225(87)2014  
校長 大友 賢  
児童数 251人



空道のW杯で優勝した千葉さん(左)と出場した後藤さん(右)

ブルガリアで7月に開かれた空道ワールドカップ(W杯)のU-13(13歳以下)に、登米市佐沼中1年の千葉新緒さん(13)と同市中田中1年の後藤花さん(13)の2人が日本代表として出場した。千葉さんは女子52kg級以下で優勝。後藤さんは同42kg級以下で惜しくも敗れたが、ともに堂々とした戦いぶりを見せた。空道は、頭部を守るスパーセーフなどの防具を装着して突きや蹴り、投げ技、絞め技、関節技で競う着衣総合格闘技。気仙沼出身の武道家東孝孝さん(1949~2021年)が考案し、1981年に仙台市で創設された「大道塾」を拠点に発展してきた。千葉さんと後藤さんは国内予選を勝ち上がり、7月5、6の両日行われたW杯に出場。大会は男女・年代別の38階級に世界

## 空道W杯に登米の中学生2人 堂々の戦い 成長を示す

26カ国から274選手が参加した。千葉さんはエントリーした3選手のうち1人が体重超過で失格したため、ウクライナの選手との決勝戦に臨んだ。「自分から仕掛けよう」と積極的な突きの連打で攻め立て、判定勝ちした。「優勝したことが、すぐには実感が湧かないくらい試合に集中していた」と振り返る。後藤さんは出場7人によるトーナメント初戦でウクライナの選手に判定負けした。会場の床が滑りやすく、蹴り技の応酬で後手に回り「いつもと違う環境でも力を出さなければならぬ。良い経験になった」と話した。

## 本プロ 推しの二冊

こぶたくん ジーン・バン・ルーワン さく アーノルド・ローベル え 三木卓 やく 童話館出版

### ほっこり楽しいお話5編

こぶたのオリバーくんはある日、「お外に出て、うんと深い穴を掘りたい。そして、母さんに砂のケーキを作ってあげたい」と言いました。それを聞いた母さんは「外は寒いし、雨が降っているから、台所でお菓子を焼きましょう」と言います。こぶたくんと母さん、妹のアマダは、一緒にオートミールのクッキーを作り始めました。バターにお砂糖、卵が一つ、オートミールと小麦粉1カップ。材料を入れ、かき混ぜて、クッキーの生地が出来上がった

ら、ちぎって、丸めて、オーブンへ。クッキーが焼けるまでの間、こぶたくんたちは、台所のテーブルに座って、クッキーが焼けるおいしい香りが漂う中、雨の音を聞いて待っていました。(おかしをやく日)

この本には、こんなほっこり楽しいお話が全部で5編入っています。続編の『しりたがりやのこぶたくん』と合わせてどうぞ。小学校低学年から。(仙台市太白図書館 佐藤直美さん)